

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

プログラム名	社会人のキャリアアップ教育プログラム		
事業名	経営管理能力キャリアアップ教育		
法人名	学校法人中央総合学園		
学校名	中央情報経理専門学校高崎校		
代表者	中島利郎	担当者 連絡先	下田秀之
<p>1. 事業の概要</p> <p>1. 定年を控えた中高年の再就職(専門職の転職や関連企業の役員・幹部への就任等)に備え、財務・労務等経営管理能力を育成する講座を体系的に実施し、中高年人材の再チャレンジを促進する。</p> <p>2. 産業界が求める指導力が身に付く先導的で実践応用能力を教育する。</p> <p>3. 演習講座・プレゼンテーション・講演会・成果報告会を開催した実践的な講座を実施した。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>1. 実践的な講義内容:経営の現場の視点から編集した講座とした。</p> <p>2. 即戦的に考えさせる教材:教育・習得すべき内容は即実践に生かせるような教材を採用した。</p> <p>3. 講師陣・受講生の交流:受講者は経験豊富な企業人で、受講者から「一方的な講師説明にならぬよう意見交換の場を必ず設けた。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>1. 実践的な講義内容:経営の現場の視点から編集した講座が出来た。</p> <p>2. 即戦的に考えさせる教材:教育・習得すべき内容は即実践に生かせるような教材を採用した。</p> <p>3. 講師陣・受講生の交流:受講者は経験豊富な企業人で、受講者から「一方的な講師説明にならぬよう意見交換の場を必ず設け、就業に役立った。</p> <p>③今後の活用</p> <p>社会人再教育講座(仮称「中央キャリアカレッジ」:夜間や土日講習)の開講を目標とする。</p> <p>1. 中小企業指導団体、コンサルタント団体、監査法人、と共同して経営管理人材を育成する。</p> <p>2. 中央情報経理専門学校高崎校と前橋校で使用する実践教科の教材として活用したい。</p> <p>3. 資格取得でなく企業経営者の育成を目的とした実践講座の開講は初めての試みである。</p> <p>4. 本講座で実施した講義録を編集して今後の開講講座の教材として活用する。 会社法・金融商品取引法の施行以降の経営管理の領域を専門学校が独自に編集する。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>1. 周知:今後の成果報告会、学園新聞の活用、教材配布を行う。</p> <p>2. 課題:講師の確保、さらに緊急に職業能力を高める社会的な必要性を広報する。</p> <p>3. 実施教材の活用:企業や諸団体の教育ニーズに貢献する。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等

A・B・C3コースの講座中、7割以上の受講があった受講者に履修証明書を発行した。受講者アンケートの提出もいただき、受講内容の活用の考えを確認した。

②カリキュラムの内容

中小企業の経営が出来る人材を目標として以下の講座を実施する。なお、下記A～Cの講座：96時間の開講・運営について実行委員会と運営委員会を各2回開催する。また、講座の後半に普及講演会(東京)、終了時期に成果報告会(群馬)を開催する。

1. A講座:知識編<15時間>
 - ・経営者<企業経営及び経営幹部>の業務要綱・業務要領
2. B講座:実技編B講座<30時間>
 - ・経営調査・企業評価に必要な技能・技術、コーチング・プレゼンテーション能力
3. C講座:経営管理編<51時間>
 - ・(必修)経営、法務、財務、労務、マーケティング、IT (選択)MD、統計、ブランディング

③講座の実施

1. 講座の開催は計画どおり32講座を実施した。(IT系6教科は労務管理系教科に変更した。)
2. 公開講座方式で「特別講座(日本橋)」を開催し、「普及講演会(神戸)」を1回開催した。
3. 普及講演会では本年度の講座、成果報告会では次年度の講座を関係者などにPRした。

④支援対象者(受講者)の状況

1. 応募状況:(1)A講座24名、B講座28名、C講座18名で予定員数60名(特別講座・普及講演会だけの参加者49名は除く)を確保した。
2. (1)受講者の反応:概ね役立つ内容であったと回答いただいた。(2)役員クラスの受講者の態度に改善の余地がある。(3)IT分野の教育内容は習熟度の格差と要望により変更もあった。
- (4)感想:講座自体の感想は概ね良好な感想である。(5)期待:受講者各自の仕事に役立つとの感想が多くこのような講座への期待が高い。